

インディーズ時代を経験したバンドにおける音楽性の変化に関する統計分析

2002MM065 中村 佑一郎

指導教員 松田 眞一

1 はじめに

1980年代後半から1990年代初頭にかけてバンドブームとよばれる時代があった。多くのバンドがメジャーデビューしていった。その後解散したバンド、今でも続けているバンド、様々ある。

バンドがメジャーデビューしたときや、しばらく活動していく中でリスナーから「なんか音楽性が変わった」といわれることがしばしばある。それはリスナー側の音楽性が変わったのではなく、本当にそのバンド(作曲者)の音楽性に変化があったのかを統計的に解析していく。

2 データについて

2.1 バンド、曲

インディーズからメジャーデビューを果たしたバンドは多くいるが、その中でもバンドブームのころデビューを果たし、音楽ジャンルも近い、GLAY、LUNASEA、L'Arc-en-Cielの3バンドのインディーズ、メジャー初期、中期、後期(現在)のアルバムより同じ作曲者の曲を3曲ずつ選択した。作曲者は、GLAY:TAKURO、LUNASEA:SUGIZO、L'Arc-en-Ciel:kenを選んだ。

2.2 アイテム

[1-12]より、音符の長さ、3音の形をとりだした。音符の長さは、8分音符未満、8分音符、8分音符と4分音符の間、4分音符、4分音符と2分音符の間。3音の形は、 \backslash 、 \wedge 、 \wedge 、 \wedge 、 \wedge 、 \wedge 、 \wedge 、 \wedge 、 \wedge とし、音符の長さ、3音の形ともに出現回数を数えて使用した。それらのアイテムは、コードの変化などから、Aメロ、Bメロ、サビと1曲を3つにわけ各8章節ずつから取り出した。

3 解析方法

外的基準を各バンド、インディーズ=1、メジャー初期=2、中期=3、後期=4とし、数量化 類で解析した。また、外的基準をGLAY=1,2,3,4、LUNASEA=5,6,7,8、L'Arc-en-Ciel=9,10,11,12とし、全体での解析も行った。

さらに、クラスター分析による解析を行った。クラスター分析では、各群の意味付けをし、各メロに群を当てはめ曲の構成についてもみた。

4 GLAYの解析

4.1 数量化 類

音符の長さ 相関比(第1軸:0.500、第2軸:0.433)

第1軸は、8分音符の21~30回、2分音符の11~20回のスコアが高いことから軽快さのあまりない流れるような、おとなしい感じの曲の軸。第2軸は流れのいいギターポップの軸となった。

3音の形 相関比(第1軸:0.478、第2軸:0.246)

第1軸は、3音同じものと右下がりのももの影響が大きいことからメロウ軸、第2軸は疾走感の軸であるといえる。

4.2 クラスター分析

インディーズのころには、1曲が1つの群で構成されているものが他の群よりも見られる。メジャー中期には、Aメロのみ違う群で、Bメロ、サビが同じ群という構成が見られる。そして、メジャー初期と後期には、同じ群が多く使われている。

4.3 考察

インディーズ初期は曲が単純構成で軽快性の高く、メジャー中期でも軽快性が高いがこちらのほうがポップ性が強い。後期ではおとなしい軸、メロウ軸が大きく正となっている。インディーズの頃に見られたロック性が影をひそめ、聞かせる音楽へと変化しているのがわかる。

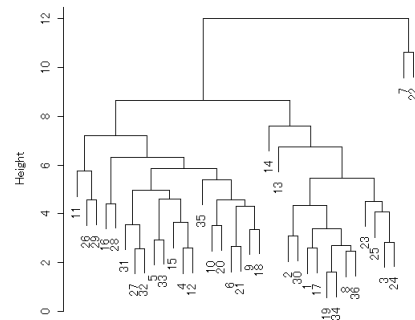


図1: GLAYのクラスター

5 LUNASEAの解析

5.1 数量化 類

音符の長さ 相関比(第1軸:0.496、第2軸:0.439)

第1軸は、音符が、多いか少ないかのどちらかにスコアが偏っていることから、音符に偏りがある。2種類くらいの音が基本の曲構成の、テンポがよく、とても聴きやすい曲の軸。第2軸はスタンダードなギターポップ軸。

3音の形 相関比(第1軸:0.562、第2軸:0.285)

第1軸は一定音をベースに少し上がって下がっている。スムーズな流れがあり、なじみやすいメロディの軸。第2軸は軽快な曲の軸。

5.2 クラスタ分析

インディーズ、メジャー初期はほぼ2群、4群で構成されている。AメロとBメロが違う群となっていることが多く、曲の構成に特徴が見られる。メジャー中期、後期になると3群が現れる。3群のメロディは複雑であり技術面での変化も伺える。

5.3 考察

インディーズの頃は、見た目も含めてヴィジュアル系の色濃かった時期。上下の揺れがあり、使っている音符も長めの傾向の、重い曲調をしている。メジャー初期にはヴィジュアル系の重い感じの曲調からロック調に変化している。しかし、クラスタ分析による曲構成の変化を見ると、インディーズとメジャー初期の間には大きな差は見られない。そして中期はロック調ではあるが、流れが重視されたものになっている。とくにメロディに変化がみられ、技術的に難しいものへと変えている。後期には軽快なギターポップとなっている。数量化 類の音符の長さの解析で、第1軸のカテゴリースコアがインディーズから正方向への一定変化だったのが、ここへきて大きく逆方向変化している。また、3音の形の第2軸も大きく負から正へ変化している。

6 L'Arc-en-Ciel の解析

6.1 数量化 類

音符の長さ 相関比 (第1軸:0.534、第2軸:0.362)

第1軸は、8分音符より短いものと、8分音符と4分音符の間のもののスコアが高い。さわやかな曲の軸であるといえる。第2軸は休符の少ない曲の軸。

3音の形 相関比 (第1軸:0.307、第2軸:0.220)

第1軸は、山、谷がたのスコアが高いため、音の上下が激しい軸。もしくは、ポイントポイントですっと上がる音がある軸。第2軸はフレーズごとで一定の盛り上げをもってきている曲の軸。

6.2 クラスタ分析

分析の結果を群に分けたものを、各時期、各メロに分けたものを見てみると、インディーズの頃には、1A群が出てこない。それとは逆に1B群が多く、後期に向かうにつれ1B群のものを使うことが少なくなっている。そのため1A群は作曲技術の進歩による、1B群からの派生、もしくは進化と考えられる。

また全時期を通して、1曲すべてが同じ群という構成をしたものは無く、メロの違いがわかりやすくなっている。

6.3 考察

インディーズの頃は単純にポップ性があり、軽快な時期。メジャー初期になるとインディーズの頃のように、高いポップ性は見られるがメジャー初期のほうがメロディが複雑になり、細かい音符の効果的な使い方をするように

なった。メジャー中期では、ここで数量化 類のカテゴリースコアが、大きく変化するものが多い。いままでと大きく変わった、メリハリのある曲になっている。ここでL'Arc-en-Cielは活動休止、メンバー脱退、新メンバー加入という事件あり、これが大きく影響したための変化と考えられる。後期には曲が落ち着いてメロウな曲のつくりへと変化していつている。

7 まとめ

各バンドとも、それぞれ時期による違いがはっきりと現れる。特に、メジャーデビュー時、活動休止期間後に大きな変化が見られる。インディーズの頃には、極度に方向性のついたものもしばしば見られたが、メジャーデビューの際にはそれが抑えられているものが多々ある。メジャーデビューでは、さわやかであったり、軽快であったりする結果が見られる。こういった曲調は一般向けしやすい。クセのある曲では好みがかかれてしまい、多くの人の支持を集めにくいと考えられる。メジャーデビューすることで、意識に変化があったのか、もしくはレコード会社からの万人向けするための矯正があったのではないかと思われる。

初期から中期にかけては、3バンドとも数量化 類の解析において、大きなスコアの変化があることが多かった。デビューというバンドでの大事件がすんで、メジャーの世界になれてきた。また、各バンド人気を確立してやりたいことがやれるようになったと考えられる。しかし、インディーズの頃のようなものに戻るのではなく、違った方向に変化している場合が多い。このころは、各バンドCDを発売するたびに、何十本というライブツアーを行い全国を渡り歩いた。芸能界という世界にいる様々な人たちと知り合った。など、世界観の変わるような出来事がとても多かった時期であろう。

中期から後期にかけては、バンドごと様々だ。大きく変化するものもあれば、あまり変わらないものもある。インディーズの頃のようにもどるものもあれば、さらに、離れるものもある。この中期から後期にかけては、各バンドの活動にも大きく差がある。GLAYは、本の出版など広い分野で活躍した。LUNASEAは活動休止期間があった。L'Arc-en-Cielはアニメ、ドラマの主題歌、CMソングと活躍した。

8 おわりに

本研究では、音楽性の変化はあるが、一様な規則性、法則性はなく、その時々作曲者の置かれた環境が最も影響して何らかの変化を起こす、という結論に至った。

参考文献

- [1-12] 各楽譜,DOREMI楽譜出版社。
ソニーマガジンズ。